

## 幼児期（5歳児）の姿

時期：5歳児 9月

ねらい：自分の思いや考えを出し合いながら、友達と一緒に遊びを進めていこうとする。

内容：友達とリレーを楽しむ。

友達に自分の考えを言ったり、相手の話を聞いたりして遊ぶ。

### リレーの人数あっちゅう？

昨日の経験から20人ほどでリレーが始まる。

かけっこの時に4コースで走っているからか、子どもたちは4本のバトンで4チームになっていた。好きな友達を誘って同じチームになったり、人数の少ないチームに入ったりする子どももいる。A児とB児とC児は、走るのが速い友達を自分のチームに入れようと誘っている。

チームの人数はほぼ5人になり、子ども同士が「人数あっちゅう？」と各チームで人数を数えて確認し、「やるで」と声をかけて4チームでリレーが始まった。

- ・体を思いっきり動かす気持ちよさを体験している。
- ・別のチームと競う、人数を合わせるというルールの共有ができています。

#### ＜保育者の思いと関わり＞

○クラス意識を高められるよう、子どもたちが昨年度の運動会を思い出して興味が向くように、バトンとアンカーたすきを目に留まるところにさりげなく置く。

○子どもたちがやってみたいと思えるように、保育者も一緒に楽しみ、人数の確認などは子どもの気付きを待つ。

結果は、2チームが早くゴールし、残りの2チームは周回遅れになった。

周回遅れでゴールしたA児は、不満そうに「何かおかしい」とつぶやき、「人数あっちゅう？」と他のチームの友達に言っている。

保育者：「どうした？」 A児：「人数がちがうと思うがやけど」

保育者：「Aくんが気付いたことがあるみたい。聞いてみよう」

A児：「ねえ、みんな人数あっちゅう？ぼくのところは6人おるがやけど」

D児：「えっ、そうなが？」 ロ々にチームの人数を数え始める。

- ・勝敗の結果から、おかしいと感じたことを友達や先生に伝える。
- ・先生の声かけを受けて、友達の話をもみんなで聞く。A児の思いを聞いて、チームの人数を数え直す。
- ・人数が合っていないことが共有できる。

#### ＜保育者の思いと関わり＞

○問題の解決を急がず、自分たちで考え解決しようとする姿を大事にし、子ども同士の関わりを見守ったり、出された意見を周りの友達に知らせたりする。

5人と6人のチームがあることが分かる。

C児：「数えたときはみんな一緒やと思ったに」と不思議そう。 A児：「ぼくもそう思ったけど、走ったら違うかった」 保育者：「よく気付いたね。みんなで何回も数えたのにね」

E児が「4チームが多いがやない？3チームにするとか」と提案する。友達も賛成して次は3チームでやってみることにした。

- ・上手いかなかった体験から、より楽しく遊べる方法を考える。
- ・思いついた新しい考えを提案する。

#### ＜保育者の思いと関わり＞

○子どもが日常の活動を積み重ねていく中で、自分たちで作る運動会にしていく。

○自分で数えたり気付いたりする姿を応援し、支えているという姿勢を表す。子どもたちの気付きや提案をつなぎ、リレーのルールや競技の形ができていくように援助する。

経験していること

【体を動かして遊ぶ】

【ルールの共有】



経験していること

【言葉で伝える】

【友達の話を聞く】

【数を数える】



経験していること

【遊び方を工夫する】

【言葉で伝える】

学習内容の  
つながり

小学生（1年生）の姿

1. 教科・単元名 算数「ちがいはいくつ」
2. 本時の目標 ●求差の場面について、減法の意味を理解する。
3. 主な学習活動

(1)ちがいは、何人か考える。

もんだい

運動場のトラックで赤と白に分かれてリレーをしている図  
赤…8人 白…5人

赤と白に並んでみて

手をつないで、すわってみよう

赤組 8人、白組 5人に帽子をかぶって、ちがいが何人であるかやってみながら考えている絵

手をつなぐ人がいなかったら、立ってみるのはどう？

赤組が3人多いね

(2)ブロックを用いたり図や絵をかいたりして、立式する。

赤組の人は黄色のブロック、白組の人は白のブロックにしてみよう

赤組の人は赤色の○にして、白組の人は青色の○にしてかいてみよう。  
さっき、手をつないでいたから、ここは線でつなげよう



ノートの図



$8 + 5 = 13$ の足算ですと、13人になったよ

あれ？  
でもさっき並んだ時には、3人が手をつなげなかったよ

・並んだり手をつないだりするなど実際にやってみたり、やり方を言葉で伝え合ったりしながら、ちがいを求めていくようにする。

・自分なりの表し方を工夫しながら、友達の表現の仕方のよさが味わえるようにする。  
・問題の解決を急がず、実際にやってみたことを振り返りながら、答えが導き出せるようにする。

1. 教科・単元名 体育「かけっこ・リレーあそび」
2. 本時の目標 ●かけっこやリレー遊びを楽しく行い、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすることができる。  
●かけっこやリレー遊びの簡単な遊び方を工夫することができる。
3. 活動の様子

(1)いろいろなかけっこを楽しもう。

(2)チームでコースをつくり、リレーを楽しもう。

ぼくは、ジグザグコースで友達と競争して楽しもう



ジグザグ  
コース

くるくる・くねくねコース

くるくる、くねくねコースを作るのはどう？



ワープリレーコース

他のコースでもやってみたいな



くるくる  
コース



くるくるコースは何度やっても楽しいな。もう一回やろう

いいね。コーンや段ボールを使おう



あのコースのコーンを回るのが楽しかったから、私たちのコースにも入れようよ

・楽しそうな遊び(コース)や友達の動きを紹介することで、活動内容を広げることができるようにする。

・どのコースで走るかを自分で選んだり、新しいルールや工夫を加えたりできるようにすることで、児童が意欲的に取り組むことができるようにする。

## 幼児期（5歳児）の姿

時期：5歳児 9月～10月

ねらい：友達と共通の目的を持ち、考えを出し合って遊びを進める楽しさを味わう。

内容：自分の考えを出したり、友達の思いを聞いたりして、リレーがより楽しくなるように考えて遊ぶ。

### リレーの線うまく引けるかな

経験していること

Y児、K児：「先生、走る線を引いて」

保育者はラインカーを出し、自分たちでラインを引いていいことを知らせる。

Y児がラインカーを使ってラインを引く。出来上がると自然に数人集まってきて走り始めた。トラックの幅が狭く、「一人しか走れん」という声もあった。

- ・保育者にしてほしいことを伝える。
- ・新しいことや面白いと思ったことをやってみようとする。
- ・友達と関わりながら、体を思いっきり動かして遊ぶ楽しさを感じている。

#### 《保育者の思いと関わり》

○走りたい、リレーをしたいという気持ちが、ラインを引く必要感になり、行動につながることを大事にしている。

○子どもがラインを引くことで、「走りたい」という気持ちがより高まっていくように任せてみる。

【自分の思いを言葉にする】

【好奇心をもって自ら関わる】

次の日、S児が「走りたい」と保育者と競走する気満々で登園してきた。

保育者：「準備しよるきね」と先に外へ出る。

保育者：「ライン引こうかな、どうしよう」 R児、N児も寄ってくる。

土遊びをしていた3歳児の子どもたちがラインの先にいた。

保育者：「どうしよう」 R児：「ちょっと広くする？」

N児：「こっちに？」と考える。

保育者：「そうやね、あそこがぶつかりそうやもんね」

R児とN児がラインを引こうとする。N児が虫取り網の棒の部分で下描きをしようとするが曲がってしまい、思いきり描けない様子。

R児：「私は白いので描こう（ラインカー）」と下描きができるのを待っている。

N児がなかなか描かないので、R児が「私が白い線を引こうか」と聞くと、N児は何も言わず線を引きこうともしない。

保育者：「どうする？」「ちょっと引いてもらおう？」 N児がうなずく。

R児が途中のカーブの辺りまで引く。

保育者：「N児も引きたいがやない？」

途中で来たS児・H児・I児も「私も引く」と走っていき、つられてN児も行き、代わり合ってラインを完成させた。I児はラインカーの先回りをして足で下書きをしていて、その通りに引けてないと「行きすぎ、行きすぎ!」と伝え、その度に子どもたちはラインカーを止め、向きを直しながら完成させた。

経験していること

【言葉による伝え合い】

【同じ目的を実現するために考える】

- ・友達との関わりの中で、自分なりに思いを伝えたり、友達の考えも聞いたりしながら、どうしたらよいか考えている。
- ・みんなで遊ぶリレーの線を引くという同じ目的に向かって考えている。

#### 《保育者の思いと関わり》

○「一人しか走れん」ということから、「狭かった」という思いを感じていたのか確認すると、適当な広さも意識ができたかもしれない。

○N児が思いを出すことで、やりたいことが実現できたという嬉しさを感じてほしかったが、できなくて悔しかったという経験も大事だったかもしれない。

○自分なりに考えたことを相手に伝える、行動に移す、自分だけの思いでは進めない、困ったり嬉しかったり様々な経験をしながら皆で共通の思いやイメージに向かう楽しさを感じてほしい。



学習内容の  
つながり

小学生（1年生）の姿

1. 教科・単元名 生活科「みんなであそぼう！なかよくなろう！」
2. 小単元の目標
  - 保育所や幼稚園等の年長児とのふれあいを通して、人と交流することのよさに気付いたり、楽しんだりすることができる。
  - 相手が年長児であることを考えて、遊びや遊びのルールを工夫することができる。
3. 活動の様子

(1) 年長さんとする遊びを考えよう。(2時間)

みんなは、サッカーがしたいって言うけど、ルールが分からないよ。保育園の子も分からないんじゃない？

ぼくが、教えるから、大丈夫。サッカーにしよう

他のグループは、雨の時の遊びも考えているみたい

サッカーは広い場所があるから、他の組の子が遊べなくなるよ。おにごっこの方がいいと思う

ボールを使った方が楽しいから、サッカーじゃなくドッジボールにしよう

晴れたらドッジボールにして、雨ならホールでおにごっこにするのはどう？

・ 幼児期の経験を思い出し、年長児と一緒にできることを考えようとする1年生の思いを実現させていくようにする。

(2) 保育所や幼稚園に行って、一緒に遊ぼう。(1時間)

けいどろで使うから、段ボールで作った牢屋は、忘れずに持って行こう

飾りにしたしゅりけんは、年長さんにプレゼントしよう

年長児の様子を見ながら、絵本のページをめくっている1年生

下からボールを投げる1年生

交流活動の年間計画

	1学期	2学期	3学期
活動と教科	みんなであそぼう！なかよくなろう！（15時間）		
	ほいくえんやようちえんにいって、あそぼう！生活科4時間	たのしい水あそび 生活科1時間（体育科1時間）	ようこそ〇〇小学校へ 生活科5時間
		ピタゴラススイッチ作り 生活科3時間（図工科4時間）	ちいきの人ありがとう 生活科2時間

「ボールに当たったら、コートの外に行こうね」

背中に手を添えて案内する1年生

・ 相手が年長児であることを考えて、遊びや遊びのルールを工夫することができた姿を、友達同士でも認めていくことができるようにする。

## 幼児期（5歳児）の姿

時期：5歳児 11～12月

ねらい：考えた意見を言ったり、聞いたりしながら、共通の目的を実現しようとする。

内容：友達の意見も聞きながら考えたり、発言したりする。

### 発表会の劇を決める

10日ほど前から、数人の女児が、自分たちでアナと雪の女王の音楽をかけながら、ホールの舞台上で布や作った衣装を身に付けて、踊ったり歌ったりしていた。また、家からペープサートを作って持ってくるなどして、人形劇ごっこをして楽しむ子どもたちもいた。

経験していること

【豊かな感性と表現】

【協同性】

- ・楽しかったこと、面白いと思ったことを遊びに取り入れて、本物らしく実現する。
- ・友達と一緒に遊びを創り、実現していくことが楽しい。

#### 《保育者の思いと関わり》

○子どもがやってみたくと思った遊びが実現できるとともに、本物らしく見立てたり作ったりできるように、素材や道具の準備をする。

全員が集まった場で、保育者がペープサートを使った人形劇や舞台上で衣装を着て劇をしている友達がいることを紹介する。

保育者：「みんなも何か劇をやってみない？」 子どもたち：「やってみたい」

好きな話やテレビ番組など、次々に候補が挙がる。

どのようにみんなでする劇を決めるか考える。

A児：「じゃんけんで決めるといい」 B児：「みんなが知っているお話がいい」

C児：「出てくる人が少ないと、みんながでकिनる」

D児：「やってみたいのを言おう」

保育者：みんなの知っている話を確認する。

「お話を知らない友達がいるけど、みんなでやってみたい？」

E児：「みんながあんまり知らんがやったら、違うのでいい」

候補がいくつか絞られ、やってみたい理由を発表し合う。

経験していること

【同じ目的を実現するために話し合う】

【折り合いをつける】

- ・みんなでする劇を考えて、自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりする。
- ・自分の意見に固執せず、友達や先生の意見を聞いて友達の思いに気付く。

#### 《保育者の思いと関わり》

○何について話し合うのかを明確にし、一部の子ども意見で話し合いが進んでいかないように、全体で確認したり、発言を促したりする。

やっと2つに絞られた。保育者：「一つに決めなくても、二つに分かれて劇をすることもできるよ」と提案する。その中で二つにすると役が多くなること、一人で言うセリフもあるけれど、一人でも大きな声で言える力をもっていることを伝える。

F児：「友達といっしょにしたい」 C児：「どっちか一つに決めよう」

G児：「リレーで決めるのは、どう」 D児：「いいね、それで決めよう」

多くの子どもが賛成し、2つの話に分かれてリレーをすることになった。

その時、突然C児が泣き出した。

H児：「Cちゃんが、リレーで決めるのは嫌だって、泣きゆう」

C児の気持ちをみんなで考え、リレー以外の方法を考えることにした。

保育者が、どんな役になりたいのか確認すると、やりたい役や一緒にしたい友達を見つけた中で、『みつばちマーヤ』をやってみたく子どもが増え、決定する。

経験していること

【相手を思いやる】

【よい方法を考える】

- ・みんなの意見を聞きながら、どうするとよいか自分なりに考える。
- ・友達の気持ちを考えて、行動する。

#### 《保育者の思いと関わり》

○うなずいて聞いたり、困った時には違う解決方法を伝えたりしながら、自分たちで話し合う姿を支える。

学習内容の  
つながり

小学生（1年生）の姿

1. 教科・単元名 学級活動「なかよししゅうかいのじゅんびをしよう」
2. 本時の目標 ●クラスの友達と話し合いをしながら協力して集会の準備をすることができる。

3. 主な学習活動

(1)集会でしたいことを話し合う。

- ・これまでに学習したり遊んだりしたことの中から友達と一緒にしたいことやできそうなことを考える。

ボールを使ったゲームがいいな。ドッジボールはどう？

どうぶつバスケットが楽しかったから、みんなでもたしたいな

たくさん出たけど、全部はできないよね。どれをする？

(2) 集会の準備をする。

校長先生にも来てもらいたいな。招待しよう

司会をしたいな。6年生みたいにやってみてみたい

ドッジボールのラインは、任せて

看板や招待状を作ろう

- ・一人一人の意見を尊重し、自分たちで決めたという意識をもつことができるようにする。
- ・時間や内容の見通しを立てるのは難しいので、教師が助言しながら計画を立てるようにする。

- ・自分たちの思いや考えを共有し、なかよし集会の実現に向けて、考えたり協力したりし、充実感をもってやり遂げるようにする。

1. 教科・資料名 道徳「およげないりすさん」

2. 本時のねらい ●友達の気持ちを考え、誰とでも仲良く助け合っていこうとする気持ちを高める。

3. 主な学習活動

(1)みんなで遊んでいる時の4匹の気持ちを考える。(展開)

3匹だけでも遊んでも楽しくないなと思っっている挿絵

みんなで島へ行っている挿絵

やっぱりみんなで一緒に来た方が、楽しいな。いっぱい遊ぼう

かめ

うれしいな。みんなで遊ぶって楽しいな。一緒に連れてきてくれて、ありがとう

りす

今度は、みんなであの山に行ってみよう

白鳥

(2)大切な友達とさらになかよくなるにはどうしたらいいか発表する。(終末)

りすさんのように、一緒に遊びたかったのに、仲間に入れてもらえなくて淋しかったことがありました。だから仲間に入りたいた子がいたら、「一緒に遊ぼう」と言います。私も友達もうれしい気持ちになると思います

- ・お面など登場人物になりきる用具を準備することで、より登場人物に近付いた思いをもち、動作も交えて表現できるようにする。

- ・自分たちの生活の中で、大切な友達とさらに仲良くし、助け合おうとする道徳的心情を育てる。